

平成30年10月31日

関係者各位

学校法人 工藤学園
理事長 工藤典子

「平成29年度 愛犬美容看護専門学校 自己点検・評価報告書」の公表について

平成29年度の自己点検・評価結果をまとめましたので、公表いたします。

今後は、結果にある改善事項等を真摯に受け止め、関係各位のご意見及びご指導を賜りつつ、全教職員一丸となって改善や工夫を図り、教育水準の更なる向上を目指して参りたいと思います。

今後とも、なお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

は じ め に

学校法人 工藤学園は1978年（昭和53年）に北海道愛犬美容学園として設立されて以来、トリミングや動物看護師の深い知識と高度な技術を身につけるとともに、ペットを通じて社会に貢献できる人材育成に力を注いでまいりました。

2011年（平成23年）、北海道より認可を受け、学校法人工藤学園「愛犬美容看護専門学校」として生まれ変わり、新たな教育を推進することになりました。

本校では、「人とペットがより良い関係で共存できる社会を目指すために、技術だけでなく、他者への思いやり、挨拶や言葉遣い、コミュニケーション能力など、どの社会でも活躍できる「人間力」を養成することにも心がけ、トリマー、動物看護師としてこれからの時代に必要とされる「オンリーワンの人間」を育てていきます。

今年度、当校は創立40年を迎えましたが、今まで同様、実績と信頼を活かし、社会から求められる人材を輩出することを念頭に、より良い人とペットとの暮らしができればと考えております。

なお、本校では、平成29年度の自己点検・評価を行い、関係各位のご意見・ご指導を賜りましたので、職業実践専門課程認可校としてこれからの教育に反映させていきたいと考えております。

今後とも、トリマー・動物看護師育成のために、教職員一同、精進を積み重ねて参る所存でありますので、なお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

平成30年10月

学校法人 工藤学園

理事長 工藤典子

平成30年度自己評価と学校関係者評価報告書

1. 学校の教育理念・目標

【教育理念】

動物愛護の精神のもと、生き物すべての生命に思いやりの心もち、動物達と豊かに共生することを旨とする。さらに、学問・技術の修得にとどまらず、挨拶や礼儀を重んじ、正しい社会性を育む。

【教育目標】

- ①専門知識と技術を習得すると共に、自己研鑽に励む人材を育成する。
- ②地域の発展・向上に貢献できる人材を育成する。
- ③職業人としての自立を目指す。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

教育理念・目標の周知を徹底する。

3. 評価項目の達成及び取組状況（適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）

（1）評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	評価委員	課題と今後の改善方法
・ 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	3	3	パンフレットやホームページにおいて周知は出来ているが、更なるPRの場を考える必要がある。
・ 学校における職業教育の特色は何か	3	3	
・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱えているか	2	3	
・ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3	3	
・ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3	3	

（2）学校運営

評価項目	自己評価	評価委員	課題と今後の改善方法
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	3	3	学生管理システムを導入し、業務の効率化を図ることによって、教職員の業務負担が軽減された。また、企業に対するコンプライアンス体制は更なる整備の強化が必要である。
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	2	3	
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3	3	
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	3	3	
・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3	3	
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	2	3	
・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3	3	
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	3	

（3）教育活動

評価項目	自己評価	評価委員	課題と今後の改善方法
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3	3	学生からの授業評価を行っているが反映されていない。また教員の授業評価が行われていないので、早急に改善の必要がある。
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3	3	
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3	3	
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3	3	
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3	3	
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	4	
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	3	3	
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3	3	
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3	3	
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3	3	
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	4	
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	4	

（4）学修成果

評価項目	自己評価	評価委員	課題と今後の改善方法
・ 就職率の向上が図られているか	3	3	創立40年を迎え、卒業生の状況把握を行ったので、今後も卒業教育や情報交換の場で活用していきたい。
・ 資格取得率の向上が図られているか	4	4	
・ 退学率の低減が図られているか	4	4	
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	4	
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3	4	

(5) 学生支援

評価項目	自己評価	評価委員	課題と今後の改善方法
・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	4	経済的支援体制、課外活動に対する支援体制は確立されていない。健康管理や学生相談の組織体制は整備されてきているが、更なる強化を目指す。
・ 学生相談に関する体制は整備されているか	3	4	
・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	2	2	
・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3	3	
・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	2	2	
・ 学生の生活環境への支援は行われているか	2	2	
・ 保護者と適切に連携しているか	3	3	
・ 卒業生への支援体制はあるか	3	3	
・ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3	3	
・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	4	

(6) 教育環境

評価項目	自己評価	評価委員	課題と今後の改善方法
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	2	防災面は訓練や点検を毎年行っているが、平成30年度、胆振東部地震発生により避難訓練を地震訓練に変更した。訓練では避難場所や経路などの確認を行ったが、スムーズに避難することや備蓄など改善点は多くある。また、地域住民との協力や支援の検討の必要がある。
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	3	
・ 防災に対する体制は整備されているか	3	3	

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	自己評価	評価委員	課題と今後の改善方法
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	3	3	オープンキャンパスで諸費用（資格費用等）を提示しているが、その他明確化が必要である。また、適正は募集活動を実施しているが、定員を充足させることが出来ず、教育成果が性格に伝えられていなかったと判断、改善を早急に行う必要がある。
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3	4	
・ 学納金は妥当なものとなっているか	4	4	

(8) 財務

評価項目	自己評価	評価委員	課題と今後の改善方法
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	3	特になし
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3	3	
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	4	4	
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	4	4	

(9) 法令等の遵守

評価項目	自己評価	評価委員	課題と今後の改善方法
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	4	特になし
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3	3	
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3	3	
・ 自己評価結果を公開しているか	4	4	

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	自己評価	評価委員	課題と今後の改善方法
・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	3	動物での地域貢献（慰問等）ができないか検討したい。
・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2	2	
・ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2	2	

(11) 国際交流

評価項目	自己評価	評価委員	課題と今後の改善方法
・ 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	2	3	留学生に対する戦略的な募集は実施していないが、必要があるため今後取り組んでいきたい。
・ 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3	3	
・ 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3	3	
・ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2	2	

学校関係者評価報告書

1. 学校関係者評価委員

評価委員	所 属
上 西 陽 介	トリミングサロン Doggy Life
千 葉 直 美	DOG SALON pawprint
佐 藤 蘭 子	えとう動物病院
佐々木可愛美	湯山動物病院

2. 委員会開催日時

開催日時：平成30年10月11日(木) 16:00~19:30
開催場所：愛犬美容看護専門学校

3. 委員会次第

(1)開 会

(2)校長挨拶・委員自己紹介

(3)委員長の選出

評価委員全員の意見で上西陽介氏を委員長に選出した。

(4)平成29年度自己点検・評価報告の説明

学校側で行った自己点検・評価についての説明を行い、今後の課題や問題点について報告した。

(5)委員による意見交換

自己評価報告後、評価委員から改善点や今後の課題について意見をいただいた。

1. 評価項目の達成及び取組状況

教育理念・教育目標の認知度は改善されてきている。しかし、更なるPRを考える必要がある。

2. 学校運営

平成29年度に情報システム化を目指し、平成30年度に整備できたことは評価できる。

教職員の業務負担は軽減されたが、有効活用することに期待したい。

コンプライアンス体制は再度確認し、強化を図るべきである。

3. 教育活動

授業評価は学生には実施しているが、授業に反映されてない。また、教員への授業評価方法がまだ整備されていないので実施を早急にすべきである。

4. 学修成果

平成29年度より準備し、平成30年度に卒業後の状況把握を行えたことは大きく評価できる。今後、そのデータを基に、卒業教育や情報交換の場をもってほしい。

退学者の低減は昨年同様評価する。

5. 学生支援

学生相談の体制や健康管理を担う組織体制は整ってきている。経済的支援体制、課外活動に対する支援体制は現在行っているの、今後どのようにすべきか検討の余地はある。

6. 教育環境

現在の設備は徐々に老朽化が目立ってきているので改善の検討を始めたほうがいいかもしれない。

防災に関しては、犬と一緒に避難などさまざまな想定・訓練を平成30年度に行っているの、結果を踏まえ避難方法を確立してほしい。

また、地震の際、学生のために校内を開放したこと、場合によっては地域住民にも校内開放を検討している点も評価される

7. 学生の受入れ募集

学生の募集活動は適切な基準で実施しているが、定員を充足できなかったことは、何か問題があるかもしれない。もしかすると教育成果が正確に伝えられていないのでは。

また、授業料以外の諸費用はもう少し周知すべきだと思う。

8. 財 務

学校の財務基盤は予算計画に基づいて作られている。また、予算・収支計画は理事会・評議員会の承認を得ており有効かつ妥当なものとなっている。

会計監査も監事が適正に監査を行っており、毎年理事会・評議員会に提出している。

財務情報公開の体制は整備されている。

9. 法令等の遵守

個人情報に関しては、在校生、または体験入学生などに説明を行い、対策をとっているが、引き続きさまざまなパターンを想定すべきである。

10. 社会貢献・地域貢献

公開講座・教育訓練の受入れは積極的にしている。平成28、29年度に文部科学省委託事業に取り組んだことは評価される。地域貢献として動物での活動はやはり検討してほしい。

11. 国際交流

留学生の受入れを行っているが、今後増える可能性もあるので、手続きに関して教職員の研修に取り組むべきである。

(6)閉会

今回の貴重なご意見・ご指導を基に、今後は徐々に問題解決・検討を解決していきたい旨を述べ、閉会した。

情報公開

【1】学校の概要・目標及び計画

●学校名 愛犬美容看護専門学校 所在地 北海道札幌市中央区南9条西7丁目1番31号
校長名 工藤 公康

●学校の沿革・歴史

昭和53年4月 北海道愛犬美容学園 開校
平成21年9月 北海道愛犬美容学園を礎に私立専修学校設置計画書を提出
平成22年7月 学校法人 工藤学園 設置認可受理
平成23年4月 愛犬美容看護専門学校 開学
トリマー科・動物看護科（2年制）、トリマー夜間科（3年制）
上級学科のトリマー専攻科（1年制）、トリマー高等専攻科（2年制）を設置
平成26年3月 トリマー科・動物看護科が文部科学省「職業実践専門課程」として認定

（認定校） 一般社団法人 ジャパンケネルクラブ インターナショナルキャットクラブ
公益社団法人 日本愛玩動物協会 一般社団法人 日本小動物獣医師会

●学校の特徴

トリマー・動物看護師の養成
JKCトリマー・ハンドラーライセンス、認定動物看護資格、愛玩動物飼養管理士、キャットグルーマーライセンスの取得を目指す。

●目標及び計画

（教育理念） 動物愛護の精神のもと、生き物すべての生命に思いやりの心を持ち、動物達と豊かに共生することを旨とする。
さらに、学問・技術の修得にとどまらず、挨拶や礼儀を重んじ、正しい社会性を育む。

（教育目標） ①専門知識と技術を習得すると共に、自己研鑽に励む人材を育成する。
②地域の発展・向上に貢献できる人材を育成する。
③職業人としての自立を目指す。

●その他諸活動に関する計画

（防災計画） 事務局長を責任者とし火災通報・校内放送・消火活動・生徒誘導・救護等、教職員の役割分担を決め、年1回防災訓練を実施している。

【2】各学科の教育（平成30年度）

●定員数・修業年限・在籍数

・トリマー科	定員40名	修業年限2年	（在籍数 1年27名 2年23名）
・動物看護科	定員40名	修業年限2年	（在籍数 1年14名 2年20名）
・トリマー専攻科（上級学科）	定員30名	修業年限1年	（在籍数 18名）
・トリマー高等専攻科（上級学科）	定員20名	修業年限2年	（在籍数 2年5名）

●カリキュラム

トリマー科 JK C指定のカリキュラムに基づく
動物看護科 動物看護師国家資格化推進委員会からの教育課程に基づく

●進級・卒業の要件等

学科試験・実習の成績等により判断する。

●取得を目指す資格

JK C公認トリマーライセンス 認定動物看護師資格 I C C公認キャットグルーマーライセンス	JK C公認ハンドラーライセンス 愛玩動物飼養管理士ライセンス 損害保険募集人一般試験
---	---

●資格取得・検定合格等の実績（平成29年度）

JK C公認トリマーライセンス	A級100%
JK C公認トリマーライセンス	B級96.1%
JK C公認トリマーライセンス	C級95.9%
JK C公認ハンドラーライセンス	C級100%
認定動物看護師資格	95%
愛玩動物飼養管理士ライセンス	1級80% 2級95%
I C C公認キャットグルーマーライセンス	A級100% B級100% C級100%

●卒業後の進路（平成29年度）

動物病院・ペットショップ等 就職率97.6%（全学科合計）

【3】教職員

●教職員数

獣医師	7名	JK C公認トリマー教士	3名
JK C公認A級トリマー	4名	JK C A級トリマー・動物看護師	4名
JK C B級トリマー・動物看護師	1名	JK C C級トリマー・動物看護師	1名
動物看護師	1名		

●教職員（スタッフ）紹介

当校の入学案内に掲載

●教職員の組織・活動

トリマー部門・動物看護部門により組織される。
研修の参加、トリマー・動物看護師の普及活動を行う。

【4】キャリア教育等

●キャリア教育への取組状況

企業と連携してキャリア教育の充実を図る。

●実習・実技等の取組状況

企業と連携し、実技・実技等の科目における現場実習（インターシップ）を行い、業務の流れや礼儀などを学び、即戦力をなせる人材を育成する。

●就職支援等への取組状況

社会人の知識を持ち、また資格の取得を前提として、就職斡旋を行う。

【5】様々な教育活動・教育環境

●学校行事への取組状況

入学式・卒業式	全国トリミング競技会
体育祭	ドッグショー・動物愛護フェスティバルの参加
海外研修	学年別レクリエーション

●地域活動 郊外清掃 等

【6】学生の生活支援

●学生支援への取組状況

学生の健康管理を気をつけ、中途退学者を出さないようコミュニケーションをとり、学生の掌握に努める。
留学生に対応できる環境づくりを行う。

【7】学生納付金・就学支援

●生徒納付金の取扱い 入学要項・ホームページに記載

●活用できる就学支援措置の内容等

特待生入学免除制度	社会人特待生免除制度
日本学生支援機構 奨学金制度	日本政策金融公庫 国の教育ローン

【8】学校の財務

①平成29年度 資金収支計算書（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	92,356,500	人件費支出	52,658,959
手数料収入	2,563,810	教育研究経費支出	14,724,792
補助金収入	4,002,898	管理経費支出	32,664,023
資産運用収入	346	借入金等利息支出	53,058
事業収入	1,879,693	借入金等返済支出	17,004,000
雑収入	107,758	設備関係支出	350,000
借入金等収入	12,000,000	施設関係支出	0
前受金収入	58,645,000	資産運用支出	1,166,340
その他の収入	26,997,104	その他の支出	29,341,861
資金収入調整勘定	-57,529,500	資金支出調整勘定	-3,241,181
前年度繰越支払基金	38,825,786	次年度繰越支払資金	35,127,543
収入の部合計	179,849,395	支出の部合計	179,849,395

②平成29年度 貸借対照表（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

資産の部		負債・基本金及び消費収支差額の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	134,760,179	固定負債	0
有形固定資産	125,711,323	長期借入金	0
土地	70,000,000	流動負債	61,590,910
建物	50,733,025	短期借入金	1,231,000
建物附属設備	3,758,992	未払金	1,391,181
構築物	196,708	前受金	58,645,000
教育研究用機器備品	1,022,596	預り金	323,729
車輛	2		
その他の固定資産	9,048,856		
流動資産	49,536,296		
資産の部合計	184,296,475	負債の部合計	61,590,910
		基本金の部	
		第1号基本金	90,353,013
		第4号基本金	8,000,000
		基本金の部合計	98,353,013
		消費収支差額の部	
		翌年度繰越消費収入超過額	24,352,552
		消費収支差額の部合計	24,352,552
		負債の部、基本金の部 及び消費収支差額の部合計	184,296,475

【9】学校評価

●自己評価・学校関係者評価の結果 ホームページにて公開

●評価結果を踏まえた改善方法 評価結果を基に改善を目指す
評価結果を基に改善を目指す